

2024年度 第2回
一般社団法人 日本学生卓球連盟 理事会
議 題

記

- 1、会議名 2024年度 第2回 一般社団法人 日本学生卓球連盟 理事会
- 2、日 時 2024年7月4日(木) 14:30~16:30(予定)
- 3、場 所 大浜だいしんアリーナ(堺市大浜体育館) 会議室 またはWEB
〒590-0974 大阪府堺市堺区大浜北町 5-7-1 TEL 072-225-4421

- 4、方 法 現地出席 または WEB(電磁的方法)による。
※以下のURLからお入りください。

<https://zoom.us/j/95984146250?pwd=MwGEGmKQ6WcAUyKpmoqeR5WDGpi9OS.1>

ミーティング ID: 959 8414 6250

パスコード: 203735

- 5、議 題 【報告事項】 _____ P4
- ①2024年度日学連・高体連合同強化事業 報告
 - ②第93回全日本大学総合卓球選手権大会 開催中報告
 - ③2024年度アジア卓球選手権大会(個人戦)国内代表選手選考会 報告
 - ④日学連震災水害復興支援講習会 準備状況報告
 - ⑤第90回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部) 準備状況報告
 - ⑥第20回全日本学生選抜卓球選手権大会 準備状況報告
 - ⑦JTТА関係報告 _____ P5~11
 - ⑧各委員会関係報告
 - ・理事長会 6/3(月) 拡大理事長会議
 - ・組み合わせ会 6/9(日) インカレ組み合わせ会議
 - ⑨その他

【協議事項】

- ①2025年度主催3大会の準備状況について _____ P12
- ②通信制大学生の登録について
- ③性同一性障害の選手の登録および大会の出場について
- ④全日本学生選抜選手権大会の推薦出場権の見直しについて _____ P13~15
- ⑤インカレ・選抜選手権大会における『予選リーグ』の表現について
- ⑥主催3大会の主管学連に対する他8支部学連からの『広告料』変更(案)
- ⑦2024韓国・日本大学生卓球交流戦、日本代表選手選考基準について(男女各6名)
- ⑧ポーランド女子大学生代表4名交流戦等対応、日学連代表4名選考基準について
- ⑨FISユニバーシティゲームス2025 ドイツ・ラインルール・代表選手選考基準について - P16~17
- ⑩その他

以上

5、議 題

【報告事項】

※2025年度事業計画(案) 添付

①2024年度日学連・高体連合同強化事業 報告

- ◎米田幹事長より報告 ※日学連ホームページより <http://www.jsstf-takkyu.com/topics/detail/id=389>
- ・4月12日(金)～14日(日) 群馬県桐生市ガススポーツセンター
- ・男子総合1位-手塚峻馬(明治大学) 2位-石山浩貴(東山高校) 3位-三浦裕大(筑波大学)
- ・女子総合1位-青井さくら(筑波大学)2位-木塚陽菜(神戸松蔭女子学院大学)3位-岡田琴菜(愛知工業大学)
- ➡【男子】手塚・三浦 【女子】青井・木塚・岡田 の5名 →全日学選抜推薦出場権獲得

②第93回全日本大学総合卓球選手権大会 開催中報告

- ◎関西学連 木村幹事長より報告
- ・本日、7月4日(木)～7日7(日) 大阪府 堺市立大浜体育館(だいしんアリーナ)

③2024年度アジア卓球選手権大会(個人戦)国内代表選手選考会 報告

- ◎鄭副理事長より報告 <https://jitta.or.jp/tour/25502> ※記録
- ・6月20日(木)～21日(金) 北区赤羽体育館

④日学連震災水害復興支援講習会 準備状況報告

- ◎板垣理事長より報告
- ・10月12日(土)～13日(日) 熊本県多良木町他 7月10日熊本県卓会議にて決定

⑤第90回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部) 準備状況報告

- ◎関東学連 眞木幹事長より報告
- ・10月28日(月)～31日(木) 埼玉県 所沢市民体育館

⑥第20回全日本学生選抜卓球選手権大会 準備状況報告

- ◎北信越学連 萩幹事長より報告
- ・11月22日(金)～24日(日) 新潟県 新潟市東総合スポーツセンター

⑦JTTA関係報告

- ◎板垣理事長より報告
- ・2024年度～2025年度役員改選～役割分担 ※理事・評議員名簿、組織図添付
- ・2024年度JTTA主催大会日程・開催場所 ※2024年度JTTA主催大会日程表添付
- ・中学生の卓球2024年度問題・部活動対策プロジェクト ※会議録添付

⑧各委員会関係報告

- ・理事長会 6/3(月) 拡大理事長会議
- ◎ 板垣理事長より報告
- ・組み合わせ会 6/9(日) インカレ組み合わせ会議
- ◎ 中村副理事長、藤倉常任理事より報告

⑨その他

【協議事項】

①2025年度主催3大会の準備状況について

◎各主管支部より方向

※2025年度事業計画(案) 添付

・インカレ (東海学連)	7月3日(木)～6日(日)	三重県 四日市市総合体育館
・全日学 (関西学連)	① 10月23日(木)～26日(日) ② 10月31日(金)～11月3日(月)	大阪府 堺市立大浜体育館
・選抜 (九州学連)	11月22日(金)～24日	福岡県 北九州市立総合体育館

②通信制大学生の登録について

- ・基本的に規約第9条-1より「通信教育の学生を除く」を削除し認めるかたちで進める。

③性同一性障害の選手の登録および大会の出場について

- ・基本的に「性別変更手続き」が認められれば実生活どおりの性別で受け入れる対応とする。その他男性→女性への性別変更の場合、筋肉量の課題があるとの意見があり検討を要する。

④全日本学生選抜選手権大会の推薦出場権の見直しについて

※選抜参考資料・規約改正案添付

- ・中村副理事長より提案。拡大理事長会議では、前年度ベスト8を次年度の推薦出場という意見が大半であった。本理事会で改定し新潟選抜より採用したい。

⑤インカレ・選抜選手権大会における『予選リーグ』の表現について

- ・各支部で予選をしており、全国大会に来てまで予選の表現は？との意見が多く予選リーグを第1ステージ、決勝トーナメントを第2ステージとする。
※7/4付けで事業実施細則を改定する。

⑥主催3大会の主管学連に対する他8支部学連からの『広告料』変更(案)について

- ・主に選抜大会の赤字解消のため、現在インカレ3万円、全日学3万円、選抜1万円のところ、案①2+2+3=7、案②3+3+3=9 どちらかに変更する。

⑦2024韓国・日本大学生卓球交流戦、日本代表選手選考基準について(男女各6名)

◎鄭副理事長より提案

⑧ポーランド女子大学生代表4名交流戦等対応、日学連代表4名選考基準について

◎鄭副理事長より提案

⑨FISユニバーシティゲームス2025ドイツ・ラインルール・代表選手選考基準について

◎鄭副理事長より提案

※別紙案参照

⑩その他

◎2024年度 一般社団法人 日本学生卓球連盟 事業計画(案)

2024.6.29

事業名	期日	会場
日学連講習会(北信越学連)	2/20(月)～23(金)	男子 北陸大学薬学部体育館 女子 金城大学体育館
日学連講習会(中国学連)	3月6日(水)～8日	広島県北広島町 広島県東広島運動公園
日本リーグ・日学連・高体連合同強化事業	4月12日(金)～14日(日) ※日本リーグ2024年度不参加	群馬県桐生市 桐生ガススポーツセンター
2024アジア卓球選手権大会(個人戦) 代表選手選考会	6月20日(木)～21日(金)予定	北区 赤羽体育館
第93回 全日本大学総合卓球選手権大会 (団体の部)	7月4日(木)～7日(日) ※パリオリンピック7/26(金)～8/11(日)	大阪府堺市立大浜体育館 大浜だいしんアリーナ
2024アジア卓球選手権大会(個人戦)	10/5日(土)～13(日)	カザフスタン アスタナ市
日学連復興支援講習会(豪雨水害被災地)	10月12日(土)～13(日)	熊本県 ①未定 ②多良木町
第90回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部)	10/28(月)～31(木)	埼玉県所沢市 所沢市民体育館
2024 韓国・日本大学生卓球交流戦	11月6日(水)～10日(日)	韓国 済州特別自治道
第20回 全日本学生選抜卓球選手権大会	11月22日(金)～24日(日)	新潟県新潟市 新潟市東総合スポーツセンター

※支部学連における『講習会』について開催の希望があれば申し出てください。選手の派遣、主管費(50,000-)の支給が受けられます。

2024年度大会・行事派遣役員

了了A主催大会 2024年 10月発表

大会名称	主管団体	開催都市	開催期間	会長(代理)	副会長	大会委員長	大会副委員長	審判長
レフリー・上級審判員研修会	日卓協 日卓協	未定 未定	未定 未定	— —	— —	— —	— —	— —
○ 全国ラージボール大会	福岡	福岡市	7月5日～7日	宮崎 義仁	—	加藤 憲二	多田 和史 (委員会委員長)	大岡 宏治(委員会)
◎ 全日本クラブ選手権大会	岐阜	岐阜市	7月18日～21日	星野 一朗	—	加藤 憲二	—	寺垣 智文
◎ 全日本選手権大会(ホース・カブ・ハンドルの部)	兵庫	神戸市	7月28日～30日	森島 尚信	—	加藤 憲二	—	末吉 智子
◎ 全国ホース大会	東京	渋谷区	8月10日～12日	—	—	—	—	紺田 晶子
○ 全日本ラージボール選手権大会	山口	下関市	9月14日～16日	—	—	—	多田 和史 (委員会委員長)	大岡 宏治(委員会)
全日本実業団選手権大会	埼玉	さいたま市	9月19日～22日	—	—	—	—	林 秀次
国民スポーツ大会	佐賀	基山町	10月5日～9日	—	—	—	—	中村 喜一郎
全日本選手権大会(団体の部)	滋賀	野洲市	10月18日～20日	—	—	—	—	宮澤 和彦
全国レディースフェスティバル	大阪	大阪市	10月22日～23日	—	—	—	濱野 加代子 (委員会委員長)	藤本 成子(大阪)
全日本社会人選手権大会	京都	京都市	10月25日～27日	—	—	—	—	濱本 寛信
全日本選手権大会(マスターズの部)	石川	かほく市	11月1日～3日 (11月1日～4日にする可能性あり)	—	—	—	—	三角 政美
○ 全日本選手権大会(カデットの部)	長崎	長崎市	11月1日～3日	—	—	—	—	大塚 明人
◎ 全国レディース大会	福井	福井市	11月23日～24日	—	—	—	濱野 加代子 (委員会委員長)	水野 妙子(委員会)
★ 全日本選手権大会(一般・ジュニアの部)	東京	渋谷区	1月21日～26日	—	—	—	—	中村 喜一郎
★ 全日本選手権(ダブルスの部)	愛知	豊田市	1月30日～2月2日	—	—	—	—	中村 喜一郎
全国ホース選抜大会	神奈川	横浜市	3月29日～30日	—	—	—	—	増沢 純
○ 全国中学選抜大会	富山	富山市	3月29日～30日	—	—	—	—	(委員会)
全国高校選手権大会	長崎	大村市	8月3日～8日	—	—	—	—	中体連
全国中学校大会	新潟	新潟市	8月22日～25日	—	—	—	—	高体連
全国高校選抜大会	岡山	岡山市	3月20日～23日	—	—	—	—	—
全国健康福祉祭(ねんりんピック)				—	—	—	—	—

◎は冠協費大会、○はボール協費大会、★は協費大会

JTTA

6/23 以下の通り決定

1. 理事候補者 (任期: 2024~2025年度)

* 年齢は2024.3.31現在

* 定数は、理事15名 (会長1、副会長1含む)、監事3名。理事のうち外部4名以上、女性6名以上。

①第5条第1項 (年齢: 75歳以下の会長・副会長候補)

No.	候補区分	氏名	生年月日	年齢	外部	性別	推薦理由概要
1	理事 (会長)	カワタ マサヤ 河田 正也	1952.4.20	71	外	男	日清紡ホールディングス(株)前会長。企業のトップとしてコンプライアンス、ガバナンス、財務、マーケティングに高い見識。2021年3月から日学連会長、同年6月から日本卓球協会評議員。卓球界への理解と深い愛情を有している。
2	理事 (副会長)	ホシノ イテロウ 星野 一朗	1955.5.11	68		男	理事就任から18年目だが、JTTAの事業継続上必要な人材。スポーツガバナンスコードに定める激変緩和措置推薦。2022年ATTU(アジア卓球連合)副会長。2025年5月国際卓球連盟現副会長任期満了に伴い、次期国際卓球連盟副会長候補として推薦準備中。

②第5条第1項 (年齢: 70歳以下の理事候補)

No.	候補区分	氏名	生年月日	年齢	外部	性別	推薦理由概要
3	理事	アンザイ ヤイチロウ 安西 弥一郎	1959.11.24	64		男	現財務担当常務理事。元高体連理事長であると同時に県事務局長。現在高体連副部長。高校の全国大会だけではなく国体、実業団等の国内大会や国際大会等の大会運営、組織運営、財務に高い知識を有している。
4	理事	イタガキ ケンイチ 板垣 賢一	1966.8.24	57		男	日学連理事長。学連時は関東学連幹事長として手腕を発揮。日学連では多様な問題へ誠実に対処し、他の理事からの信頼も厚い。2007バンコクユニバーシアードでは卓球が初正式種目となったが、その際もチームリーダーとして活躍した。
5	理事	イトウ ハナエ 伊藤 華英	1985.1.18	39	外	女	北京五輪背泳日本代表。ケガで自由形へ転向ロンドン五輪日本代表。引退後早稲田大学院にてスポーツマネジメント修士、順天堂大学院にて精神保健学博士課程修了。理論とアスリート経験の両面からアスリート支援。他競技団体アスリート代表。
6	理事	カノウ ケンジ 加藤 憲二	1955.9.6	68		男	現総務担当常務理事。九州ブロック理事長、熊本県卓球理事長。年齢を問わず信用・信頼が厚い。高校の指導・教育から選手強化・人間教育にも精通。仕事面では経営者として、経営管理・人材育成も経験し協会理事に相応しい。
7	理事	キシダ サトコ 岸田 聡子	1977.4.14	47		女	高校大学單身で北京卓球留学。世界・アジア選手権日本代表経験を活かし、アスリートファーストを実行してきた指導者。JTTAアスリート委員長として多様な選手の実際の声を協会に伝えてきた。中国語も堪能で国内外の卓球の事情にも精通。
8	理事	ノセ さやか 能瀬 さやか	1979.3.1	45	外	女	女性トップアスリートの「婦人科問題」への第一人者。東大病院勤務に併せ、JISSのスポーツクリニック婦人科でも勤務、多くの女性トップアスリート支援を行ってきた。日本アンチ・ドーピング機構でも委員として活動。日本ウエイトリフティング協会理事。
9	理事	ババ ミカ 馬場 美香	1965.7.10	58		女	現強化担当常務理事。東京2020大会までの5年間、女子ナショナルチーム監督として活動。女子指導者の第一人者。現役時代は全日本シングルスで7回の優勝経験を持つオリンピック。
10	理事	ヒラノ サヤカ 平野 早矢香	1985.3.24	39		女	現強化担当常務理事。元高体連事務局長、現岐阜県卓球理事長として組織運営、大会運営に実績がある。常務理事(4年目)としてはルール・審判部長(ルール・審判委員会、用具委員会)としての業務実績を有している。
11	理事	ミノシマ タカノブ 裏島 尚信	1959.3.3	65		男	現専務理事。2000年代以降、長く強化現場で育成・強化に携わり、現在常務理事として強化部長、強化本部長を務め、Tリーグ理事長補佐としてもスポーツ団体の運営、財務、中長期施策に精通し、実務経験がある。
12	理事	ミヤザキ ヨシヒト 宮崎 義仁	1959.4.8	64		男	高体連理事長。青森県卓球、高体連で強化育成に尽力。現役時代高校進抜、インターハイと団体全国優勝。選手・指導歴47年。体育系学部卒によるアンチ・ドーピングの知識、商業高校卒による簿記等の資格あり。高体連で中長期計画を策定・実行。
13	理事	ムナカタ シンイチ 宗片 信一	1964.6.18	59		男	スポーツ分野の法務に高度な知識と経験を有し、日本スポーツ仲裁機構の仲裁人やスポーツ団体での倫理委員を務める。国際関連ではCAS仲裁人、世界バドミントン連盟や国際馬術連盟司法委員なども歴任し、法務関連の国際情勢にも精通している。
14	理事	ヤギ ユリ 八木 由里	1973.2.17	51	外	女	順天堂大学大学院教授としてスポーツバイオメカニクス及びスポーツ健康科学領域での研究者。現JTTAスポーツ医・科学委員長。国際卓球連盟(ITTF)のスポーツ医・科学委員会副委員長としても活動し、国際間の連携上にも必要な人材。
15	理事	ヨシダ カズト 吉田 和人	1961.11.3	62	外	男	

◎ 専務理事
○ 常務理事

JTJA
2024～2027年度 評議員候補

①第6条第2項-各ブロックより推薦者各1名(定年：80歳)

ブロック	氏名	生年月日	年齢	卓球に関する主な略歴	再継新
北海道	ミヤジマ 宮嶋 英二 衛次	1956年12月9日	67	現：北海道卓球連盟副会長	新
東北	サイノウ 齋藤 カズヨシ 一美	1949年12月18日	74	現：日本卓球協会会賓、福島県卓球協会会長 前：日本卓球協会理事、福島県卓球協会理事長	継
関東	カワダ 川田 ススム 進	1944年7月26日	79	現：日本卓球協会会賓、茨城県卓球連盟会長	新
北信越	ツチムロ 土室 タモツ 完	1952年2月12日	72	現：石川県卓球連盟理事長 前：日本卓球協会監事	新
東海	シモダ 下田 カズシ 一十四	1953年1月14日	71	現：日本卓球協会会賓、静岡県卓球協会会長 前：日本卓球協会理事	継
近畿	フジ 藤井 ケイゾウ 敬三	1954年2月18日	70	現：日本卓球協会加盟団体代表者、奈良県卓球協会副会長 前：日本卓球協会理事	新
中国	イカワ 石川 キミヒサ 公久	1963年12月5日	60	現：山口県卓球協会理事	新
四国	エンドウ 遠藤 シンタロウ 美武	1951年1月19日	73	現：日本卓球協会加盟団体代表者、愛媛県卓球協会理事長兼副会長	新
九州	タケノ 高木 タマエ 珠江	1959年3月27日	65	現：熊本県卓球協会副会長 前：日本卓球協会常務理事	継

②第6条第3項-加盟競技団体推薦者各1名(定年：80歳)

※日本知的障害者卓球連盟、日本肢体不自由者卓球協会、日本ろうあ者卓球協会は3団体より1名の推薦

推薦母体	氏名	生年月日	年齢	卓球に関する主な略歴	再継新
日学連	ハシ 濱田 美穂	1947年11月24日	76	現：日本学生卓球連盟副理事長 <small>参考</small> 前：日本卓球協会理事	継
高体連	タケタ 塚田 ヒロフミ 博文	1965年11月29日	58	現：全国高体連卓球専門部事務局長、長野県卓球連盟副理事長	継
日本リーグ	フジ 藤井 マサト 正人	1960年5月6日	63	現：日本卓球リーグ実業団連盟副会長、広島県卓球協会副会長	新
知的・肢体・ろうあ	イカワ 石川 カズノ 一則	1950年1月11日	74	現：日本知的障がい者卓球連盟理事長	新

③第7条-理事会学識経験者5名以内(定年：80歳)

推薦母体	氏名	生年月日	年齢	卓球等に関する主な略歴	再継新
学識経験者	タケノ 高橋 シンオ 義雄	1968年12月27日	55	現：日本卓球協会評議員、日本スポーツ協会総合計画委員、日本女子ソフトボール機構監事、筑波大学准教授、(早稲田大学教授(2024年4月就任予定))	継
学識経験者	カサタ 勝田 シン 隆	1957年9月27日	66	現：日本卓球協会評議員、日本スポーツ協会常務理事、法政大学教授 前：日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター	継
学識経験者	ヤマモト 山本 ヒロシ 浩	1953年4月12日	70	現：日本卓球協会評議員、日本スポーツ協会常務理事、法政大学教授 前：日本プロサッカーリーグ理事	継
学識経験者	シバ 柴田 ユキオ 幸男	1948年6月11日	75	現：日本卓球協会名誉副会長、宮城県卓球協会名誉会長 前：日本卓球協会副会長、宮城県卓球協会会長、東北福祉大学教授	新
学識経験者	アラキ 荒木 ユウコ 裕子	1954年2月14日	70	現：日本卓球協会評議員、日本ソフトボール協会副会長、日本野球協会常務理事 前：日本バレーボール協会理事、1976年モントリオール五輪バレーボール金メダリスト	継

※1) 規程は全て「評議員候補者等選出規程」による。

※2) 年齢は全て2024年3月31日のもの。

※3) 再…過去年度と同一役での候補。継…継続して同一役での候補。新…その役で初めての候補。

2024年度 公益財団法人 日本卓球協会 組織図

公益財団法人 日本卓球協会

令和6年6月25日

名誉顧問	大林 剛郎
顧問	西山 昌男、北側 雅司、道上 進、梅原 誠、三浦 正英、井川 弘光、栗本 キミ代、茂原 治、青木 章泰、木村 興治、植松 克之、松本 秀幸、児玉 圭司、河村 建夫、関山 満、柴田 幸男、平尾 信次
名誉会長	藤重 貞慶
名誉副会長	前原 正浩、八尾 正博、野崎 保夫

評議員	宮嶋 衛次、斉藤 一美、川田 進、土室 完、下田 一十四、藤井 敬三、石川 公久、遠藤 美武、高木 珠江、濱田 美穂、塚田 博文、藤井 正人、石川 一則、高橋 義雄、勝田 隆、山本 浩、柴田 幸男、荒木田 裕子
-----	---

理事・監事			
会長	河田 正也	理事	岸田 聡子
副会長	星野 一朗	理事	能瀬 さやか
専務理事	宮崎 義仁	理事	平野 早矢香
常務理事	安西 弥一郎	理事	宗片 信一
常務理事	加藤 憲二	理事	八木 由里
常務理事	馬場 美香	理事	吉田 和人
常務理事	萩島 尚信	監事	金澤 恭子
理事	板垣 賢一	監事	園井 隆
理事	伊藤 華英	監事	平岡 可奈之

会長	副会長	専務理事
河田 正也	星野 一朗	宮崎 義仁

監 事		
金澤 恭子	園井 隆	平岡 可奈之

執行代表者					
北海道	楢下 博	四国	福原 淳二	業務執行役員	星野 一朗
東北	五十嵐 修二	九州	吉園 孝雄	業務執行役員	宮崎 義仁
関東	臼井 伸一	東京	斎藤 信夫	業務執行役員	安西 弥一郎
北信越	本間 敏博	高体連	宗片 信一	業務執行役員	加藤 憲二
東海	松生 純明	日学連	板垣 賢一	業務執行役員	馬場 美香
近畿	村上 博巳	日本リーグ	佐藤 真二	業務執行役員	萩島 尚信
中国	松岡 俊志	業務執行役員	河田 正也		

加盟団体代表者											
楢下 博	小林 博史	宮澤 和彦	大元 司	岩崎 俊哉	塩見 卓生	松本 秀幸	坂部 忠彦	藤田 鶴	久保井 圭子	本間 敏博	松生 純明
小田桐 憲仁	金井 肇	井岡 雅彦	大平 満	松本 秀樹	福原 淳二	吉園 孝雄	武居 和子	熊谷 武浩	高橋 正部	五百崎 平	堀内 安宏
菊地 隆	大家 仁	那珂 裕	村上 博巳	加藤 慎一	佐藤 哲也	具志堅 侑	旗川 正人	大場 賢二	齋藤 信夫	今村 邦昭	太田 晴美
五十嵐 修二	近藤 欽司	土屋 明	山下 功	松岡 俊志	村 博愛	小林 明史					

評議員会
理事会
運営会議
執行代表者会

事務局					
田部 勝	総務・財務	事業・普及	強化・国際	マーケティング	広報
矢崎 千津	松尾 英治	江尻 雄一	登内 正吾	須賀 健二	
(登内 正吾)	伊藤 大博	大仁田 展子	佐藤 紀子		
山本 紗知子	穂積 和也	藤井 和子			
布施 綾子	谷口 和子	鶴田 直也	南波 和彦		
山崎 美佳	山口 結愛	早川 勇	大和田 茂樹		

国際関連団体役員・委員		
ITTF (国際卓球連盟)	執行副会長	前原 正浩
	名誉委員	木村 興治
	用具委員会アドバイザー	長谷川 教司
	ルール委員	瀬田 幸人
ATTU (アジア卓球連合)	スポーツ科学&メディカル委員	吉田 和人
	東アジア地域担当副会長	星野 一朗
	理事	楨田 幸子
	テクニカル・審判委員会通信委員	菅部 政和

強化部	馬場 美香	強化本部	本部長 馬場 美香
		委員会	委員長
		競技者育成委員会	小岩 孝一
		アスリート委員会	岸田 聡子
		スポーツ医・科学委員会	吉田 和人
		アンチ・ドーピング委員会	小笠 博義
		ホープス委員会	松下 雄二
		指導者養成委員会	葛西 順一

事業部・普及部	萩島 尚信 加藤 憲二	委員会	委員長
		組合せ委員会	宮澤 和彦
		クラブ委員会	藤井 佳子
		段級制委員会	鈴木 達也
		中学生普及委員会	神村 義裕
		レディース委員会	濱野 加代子
		マスターズ・ラージホール委員会	多田 和史
		限定プロジェクト	リーダー
		事業検討チーム	加藤 憲二
		多様性検討チーム	星野 一朗

総務部	加藤 憲二	委員会	委員長
		環境委員会	小畑 幸生
		登録推進委員会	宇野 秀徳
		限定プロジェクト	リーダー
		100周年事業プロジェクト	松下 雄二
		デジタル・ウェブサイト運用チーム	

財務部	安西 弥一郎		
ルール・審判部	萩島 尚信	委員会	委員長
		ルール・審判委員会	中村 喜一郎
		用具委員会	長谷川 教司

広報・マーケティング部	宮崎 義仁	委員会	委員長
		広報委員会	上島 慶

国際部	星野 一朗	欧州担当	梅村 礼
		中国担当	張 一博

専務理事直轄限定プロジェクト	
部活動対策プロジェクト	加藤 憲二
普及対策プロジェクト	加藤 憲二

部署	
	日本知的障がい者連盟担当
	日本肢体不自由者協会担当
	日本ろうあ者協会担当

倫理・コンプライアンス委員会

国内関連団体役員・委員		
JOC (日本オリンピック委員会) (2023・2024年度)	名誉委員	木村 興治
	評議員	馬場 美香
	日本ユニバーシアード委員会委員	鄭 泰應
JSPO (日本スポーツ協会) (2023・2024年度)	評議員	馬場 美香
	国民スポーツ大会委員会競技運営部会	加藤 憲二
	指導者育成専門委員会委員	葛西 順一
その他	スポーツ安全協会評議員	田部 勝
	日本卓球公認工業会普及懇談会	星野一朗・宮崎 義仁 萩島尚信・長谷川 教司 田部 勝

第1回 部活動対策プロジェクト会議 会議録

【日時】

2024年4月15日(月)19:00～ リモート会議

【出席者】

総括責任者	宮崎 義仁	JTTA 専務理事
プロジェクトリーダー	加藤 憲二	JTTA 常務理事(総務部長)
サブリーダー	塚田 博文	長野県卓球協会理事長 (全国高体連事務局長)
理事メンバー	蓑島 尚信	JTTA 常務理事(事業部長)
	岸田 聡子	JTTA 理事(アスリート委員会委員長)
執行代表者メンバー	佐藤 重喜	秋田県卓球協会理事長
	堀内 安宏	一社)滋賀県卓球協会理事長
加盟団体	五十嵐 修二	一社)福島県卓球協会理事長
	土屋 明	静岡県卓球協会理事長
	榎並 正人	一社)徳島県卓球協会理事長
中体連	神村 義裕	JTTA 中学生普及委員会 委員長
JTTA 競技者育成委員会	委員長 小岩 孝一	東京都卓球協会副理事長
事務局	松尾 英治 伊藤 大博	

1)あいさつ 宮崎専務理事

・部活動プロジェクトを立ち上げたが、JTTAとして方針が決まっていない。47都道府県の情報収集をしっかりと行うことが現在は重要である。

2) 基本課題(プロジェクトの目的)

- (1) 学校部活動が地域移行するなかで、中学生の練習基盤をどう確保できるか
- (2) 地域格差(行政間)が出る中で、JTTA の役割

3) 対策・進め方(プロジェクトメンバーの役割)

- ① 全国の中学部活動地域移行に関する(学校現場の実態等)情報収集
・各県行政の情報 ・中体連情報 全国・ブロック・県
・各県協会・連盟の対応情報
- ② 集めた情報の分析とフィードバック
- ③ JTTA としての対策・方針協議
・中学校部活生徒の登録について ・全国中学選抜大会の参加要項について

4) 主な発言 <各県行政、県卓の動向を自由に発言してもらった>

- ・現状は市町村で進み具合が異なる。一番進んでいる市では1年半後にはクラブ活動、運動部、文化部など含めて部活動廃止が決定している。
- ・2024年度からは部活動の募集を行わない中学校や平日も含めて地域移行を実施している市もある。
- ・完全に地域移行した場合、JTTAの登録人口が減少していく可能性がある。
- ・教える立場として、指導者のコーチ1以上の資格は必要だと思う。他競技は資格所持者が指導を行っている。
- ・卓球人口を増やすことや、練習できる場所を探すことになると、お金もかかってくることもあると思う。より広めようとする場合、資金面などを考えると、ユニフォームのスポンサーロゴも認めていく方向でいいと思う。
- ・地域クラブと中学校の部活動が混在している。ただクラブチームは、コーチ1以上の資格がないと指導が出来ないで、クラブ立ち上げにハードルがある。

- ・地域移行が本当にできるのか心配ではあるが、どう動いていけばいいかが分からないので、他県の情報を聞いて動いていきたい。
- ・行政によって進み方がバラバラではあるが、地域移行に関してはかなり遅れていると思う。ある地域の方針は、学校の部活を無くさない、土日に関しては、市の卓球協会が協力し、合同練習会を実施。複数校が1か所に集まり、市の卓球協会主導で部活動を実施。平日は学校で練習を行う。教員がいない学校に指導者を派遣する(コーチ2以上)日程調整し、指導者を派遣。時給・ガンソリン代も支払う。ただ部活動の生徒が1人~5人で少人数なのでバランスが難しい。
- ・今年スタートコーチの資格取得講習会が稼働し、来年からその資格を持つ人が全国に増えると思うので、何とか中体連の方と相談してそのスタート・ペースで参加できるようにハードルを下げてもらいたいんじゃないかと思う。
- ・卓球をやっている中学生には何も責任はない。部活動でもクラブ活動でも、全ての大会に出場できるように大会要項を作成していく予定。ただクラブチーム数が少ない。理由としては、教育委員会の承認が必要、コーチ1以上が必要。クラブ立ち上げのハードルが高い。クラブチームとして受け入れの環境整備(場所や手当など)が進んでいないチームもある。中学生に選択をさせてあげたい。人材確保、手当についての整備が出来ていない。クラブが無くなったら競技人口が減ってしまうので解決策を見つけない。
- ・地域移行の話は2年~3年前から聞いていた。県卓球協会としてもどのように進めていくかを検討していた。市から地域移行を進めたいので指導者派遣依頼について相談があった。県卓として中学校への指導者を募集し20名が集まった。2023年度は土日のどちらかで10回ほど、市内の中学校を会場として、17校の合同練習会を7回実施した。
- ・登録人数がかなり減ることが予想されるので他競技から卓球に流れ込んでくるようなアピールも必要。昨年卓球メーカーさんと一緒に、普及活動にも力を入れている。
- ・日本中体連が地域移行を推進しているわけではなく、文部科学省及びスポーツ庁が、中学校の教員に対して働き方改革をしなくてはならないということから、地域移行の話が始まっている。そのため、子供たちがメインの話ではなく、教員の働き方改革のみが話し合われている。文部科学省及びスポーツ庁は、日本中体連に対して、全国中学校大会にすべてのクラブチームを参加させるということが最初の指示だった。
- ・部活動に来ている子供たちは、中学生から始める子は、全国大会を目指すことより、興味から入る子が多い。教育を含めて生徒を育てるのが部活動と考えている。子供たちのためにも、クラブ指導者はコーチ1以上の資格所持者が必要だと感じる。全中というのは全国中学校体育大会なのでクラブチームが参加するのは特例という考え方を持っている。
- ・全国中学校卓球大会や県大会などの大会運営は中学校の先生が行っている。クラブチームの指導者が運営をしてくれるわけではないので、今後地域移行が進んだ場合、大会運営の問題も起きてくる。
- ・JTTA主催の全国中学選抜大会は、各県1位が出場出来る貴重な大会なので、大事にしてほしい。新たにもう1つ中学生の大会を増やして頂くことが可能であれば、全中と選んで選ぶことが出来れば理想的だと考える。
- ・中体連の加盟登録者数が5年間で200万人から180万に減っている。卓球の登録者数も減っている。JTTAとして1つずつ答えを見つけ出すことが重要だと思う。東京都の中学生は15%しかJTTAに登録していない。
- ・全国大会予選など上のレベルに合わせた大会運営を多く行っていたので、普及面が出来ていなかった。卓球を通じてスポーツの価値を感じてもらい、どんなレベルでも楽しめる大会を運営することが大事だと思う。

宮崎専務

この会議を設ける前から大変難しい問題だと感じていた。全国中学選抜大会はJTTAでコントロールをしっかり行い、あとは日本全国の自治体が異なるので、各自治体が参考になるような対策を見つけ、JTTAから情報発信を行うことが重要だと思う。今後は課題を2つ3つに絞って打合せをしたほうがいいと感じた。

養島常務

事業部としては、全国中学選抜大会の参加要項の見直し等主催大会には対応できる。地域移行が進んでいる都道府県と進んでいない都道府県があり、数年後に合わせて要項変更を検討する必要あるが、今の段階では要項変更を進めることが難しい。

加藤リーダー

卓球をすることが出来ない中学生がいるということが問題である。

5) 質疑応答

質問;①全中は今後もこのような形で進んでいくか?

②全国中学選抜大会も全中と同じルールにした場合、都合が悪いことがあるか?

回答;①全中に関しては2023年と2024年にスポーツ庁と話し合いが済んだので、現状の予定で進めることになる。

②全中のルール変更は中体連が望んだ内容ではなく、日本中体連卓球競技部としては中学校単位で出場させたかった。県優勝校でもブロックで敗退し、全中に出場することは出来ていない。

ただ、全国中学選抜大会には出場することが出来る。全中に出場することが出来なくても、優勝すれば全国大会に出場することが出来ることから、JTТАに登録する理由がある。

クラブチームが認められた場合、クラブチームの方が強いのは当たり前なので、中学校がJTТА登録しなくなってしまい、登録人口に関わってくる。

意見;今までは全国中学校選抜大会は中学校単位のみでと思っていたが、地域移行が始まると出場できない中学生もいることを考えると揃えたほうがいいかなと思いはじめた。

意見;最近、全国の市町村から長野市に視察に来る。長野市の説明は、成功している例のみを挙げている。小中学生全員に1人3万円のクーポン券を配り、クラブチーム登録金として使用することが出来ることや、合同練習の際は循環バスを用意。長野市では1年半後に部活動が無くなるので、その際には全国に波及すると思う。近い将来中学校の部活動が無くなることを視野に検討する必要がある。

意見;例えば東京で実施した場合、中学生は何万人もいる。東京の場合は、成功の道筋が見えない。すべての中学校で部活動が無くなった場合、顧問の先生もいなくなるので、県大会の運営ができなくなる。そこまで考えて地域移行を進めることが出来ていない。

加藤;熊本市では部活動を希望する教職員のみ関わることができ、複数校での合同部活動も推進する。

答申は受け皿の確保が難しい現状や教育的な意義を踏まえ、部活動を継続させるとした【新聞記事】部活動を希望する先生は関わっていいと考えている。

蓑島;全国中学選抜大会の大会要項を変更するのではなく、個人の意見としては、新規の大会を新設する必要があると思っている。日本卓球協会の登録人口の過半数は中学生だと思う。中学生を救うためには何か動く必要があると思っている。

宮崎;今後も会議を行い、全員で意見を出し合える会議にしていく必要があると思う。

5) その他

・名簿の扱いについて。携帯番号・メールアドレスの委員会内共有をお願いし承諾された。

・中学生普及委員会の議事録を全体に共有することを神村委員長に了解を得た。

次回予定 月曜日開催希望されている委員さんがおられるので、次回は月曜日19時～

事業名	期日	会場
FISUユニバーシティゲームズ (2025・ドイツ-ラインルール) 代表選手選考会	2月最終週or3月第1週	東京都内予定
日学連講習会(北信越学連)	未定	未定
日学連講習会(中国学連)	未定	未定
日本リーグ・日学連・高体連合同強化事業	4月上旬～中旬	群馬県桐生市 桐生ガススポーツセンター(予定)
2025 日本・韓国大学生卓球交流戦	未定	日本(予定)
第94回 全日本大学総合卓球選手権大会 (団体の部)	7月3日(木)～6日(日)	三重県四日市市 四日市市総合体育館
FISUワールドユニバーシティゲームズ (2025・ドイツ-ラインルール) 本戦	7月16日(水)～27日(日)	ドイツ・ライン=ルール都市圏 デュッセルドルフ
第91回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部)	①10月23日(木)～26日(日) ②10月31日(金)～11月3日(月)	大阪府堺市立大浜体育館 大浜だいしんアリーナ
第21回 全日本学生選抜卓球選手権大会	11月21日(金)～23日(日)	福岡県北九州市 北九州市立総合体育館
日学連復興支援講習会	未定	未定
日学連国際交流 強化事業	未定	未定

※支部学連における『講習会』について開催の希望があれば申し出てください。選手の派遣、主管費(50,000-)の支給が受けられます。

追加：赤字

削除：灰色

一般社団法人日本学生卓球連盟 事業実施細則

第4条 全日本学生選抜卓球選手権大会

3. 出場資格

- (1) 当該年度全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）シングルスランキング16位まで
 - (2) 前年度全日本学生選抜卓球選手権大会ベスト8以上
 - (2) (3) 本連盟内規第3条に定める外国人留学生選手
 - (3) (4) 主管支部推薦者・男女各4名ずつ
 - (4) (5) 各支部（主管支部以外）推薦者・男女各2名ずつ
 - (5) (6) 当該年度日本リーグ・日学連・高体連合同強化事業の成績優秀選手（全体順位の1位から3位）・男女各3名ずつ
 - (6) (7) 強化委員会推薦者
- ただし、全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）でランク入りした日本人選手に関しては、原則として本大会への出場を義務とする。止むを得ない事情がある場合は、その理由を記した欠場届けを本連盟に提出しなければならない。無断で本大会を欠場した場合、およびその理由が正当でないと判断された場合は罰則を課す場合がある。また、強化委員会推薦者は全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）ランカーの欠場の補充とし、両者の合計は16名とする。
- (7) (8) 参加申し込みが男女各48名に満たない場合にその不足人数分の主管支部補欠推薦者

4. シード規定

(2) 予選リーグ

①次の優先順位に従い、各ブロックの各段に選手を割り当てる。

段目	優先順位	対象
1	1	当該年度全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）シングルスランキング1～8位の選手
	2	上記に欠場があった場合に同ランキング9位以下の選手
2	3	同ランキング9～16位の内1段目に入らなかった選手
	4	強化委員会推薦者
3	5	合同強化事業の成績優秀選手（最大3名）
	6	前年度全日本学生選抜卓球選手権大会ベスト16以上で上位の選手
	7	外国人留学生選手
4	8	主管支部推薦者（最大4名）または主管支部補欠推薦者
	9	3段目の優先順位の対象の内3段目に入らなかった選手
5・6	10	各支部（主管支部以外）推薦者（16名）

②1段目はランキング1位をAブロックに、2位をBブロックに、3位以下を同様に割り当てる。

③2段目以下は抽選により割り当てる。なお出来るだけ同じ大学の選手が同じブロックにならないよう考慮する。また5・6段目において同じ支部の選手が同じブロックにならないよう考慮する。

①各ブロックの1段目

当該年度全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）シングルスランキング上位選手をAブロックから順に自動的に割り振る。欠場がない場合は、

Aブロック全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）優勝者（ランク1位）

Bブロック全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）準優勝者（ランク2位）

Cブロック全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）ランク3位

：

Hブロック全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）ランク8位

となる。欠場があった場合は、ランク9位以下を繰り上げる。

②各ブロックの2段目

当該年度全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）シングルスランキング9～16位の内、1段目に入らなかった選手、および強化委員会推薦者を抽選で割り当てる。

③各ブロックの3段目

合同強化事業の成績優秀選手、主管支部推薦者1～4名、および外国人留学生選手4名を入れる。合同強化事業の成績優秀選手は必ず3段目に入れなければならない。外国人留学生選手は、前年度の全日本学生選抜卓球選手権大会の結果の上位より充てる。（ベスト4→ベスト8→ベスト16）前年度ベスト16の外国人留学生選手で3段目が満たない場合は、その他の外国人留学生選手の抽選にてこれを補充する。また、前年度の全日本学生選抜卓球選手権大会において、ベスト4に入った外国人留学生選手はE～Hブロックに入れなければならない。

④各ブロックの4段目

各支部（主管支部以外）推薦者各2名ずつの内、各支部からの優先度の高い1名ずつの計8人を抽選にて入れる。

⑤各ブロックの5段目

各支部（主管支部以外）推薦者各2名ずつの内、4段目に入らなかった計8人を抽選にて入れる。なお抽選にあたっては、同一支部同士が4段目と5段目において重複しないようにする。

⑥各ブロックの6段目

3段目に入らなかった主管支部推薦者および外国人留学生選手または主管支部補欠推薦者を無作為抽選にて入れる。

⑦以上の全段の抽選においては、極力、同じ大学の選手を同じブロックに入れない様に考慮する。それ以外は、無作為抽選を原則とし、全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）のベスト8決定戦の対戦者が同じブロックの1段目と2段目に入ることも妨げない。

2024年7月4日

公益財団法人 日本卓球協会

常務理事・強化本部長 馬場 美香 様

一般社団法人日本学生卓球連盟

強化委員長 鄭 泰應

2025FISUワールドユニバーシティゲームズ・日本代表選手選考基準(案)

標記について、2025年7月16日(水)から27日(日)の間、ドイツ・ライン＝ルール都市圏のデュッセルドルフで開催される『2025FISUワールドユニバーシティゲームズ』に派遣する日本代表選手の選考基準を、以下のとおりとして、JOCに推薦することとする。

1、本大会概要

- (1)大会名 2025FISUワールドユニバーシティゲームズ・ライン＝ルール
- (2)開催地 ドイツ・デュッセルドルフ(ライン＝ルール都市圏)
- (3)会 期 2025年7月16日(水)～27日(日)

2、 出場資格

- (1)本連盟登録選手のうち、日本国籍を有し、大会が開催される年の1月1日現在で17歳以上28歳未満、なおかつ大学または短大、大学院に在学中、もしくは大会の前年に大学または短大、大学院を卒業した者。

3、 代表選手選考基準(男女共通) ※男女各々5名を代表候補選手としてJOCに推薦する。

- (1)第90回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)シングルス優勝者を代表候補選手としてJOCに推薦する。 ※2024年10月28日～31日開催
- (2)2025年全日本卓球選手権大会(一般の部)シングルスBEST4入賞者を代表候補選手としてJOCに推薦する。 ※2025年1月21日～26日開催
- (3)以上で代表候補選手が5名に満たなかった場合は『代表選手選考会』を実施し、JOCに推薦する選手を選考する。

4、 『代表選手選考会』参加基準 ※2-(3)

- (1)第90回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)、シングルスBEST8入賞者
- (2)第20回全日本学生選抜卓球選手権大会、シングルスBEST8入賞者
- (3)2025年2月1日発表の世界ランキング100位以内の者
- (4)2025年度大学進学予定者のうち、全国高校総体シングルスBEST4入賞者
- (5)その他強化委員会が推薦する者(既卒業者も含む)

【男子】手塚峻馬(明治大学)、【女子】青井さくら(筑波大学) ⇒高体連合同強化事業1位(7/4提案)

5、 代表選手選考会合宿

- (1)開催場所 東京都内体育館
- (2)予 定 日 2025年2月最終週 or 3月第1週
- (3)選考方法 参加選手総当たりを行い、上位から不足分を選考する。参加者多数の場合(12名以上)は2リーグに分けて第1ステージ(予選リーグ)を行い、各々のリーグで上位3名(計6名)にて第2ステージ(決勝リーグ)を行う。
- (4)適用ルール 全試合5ゲームスマッチにて行う。
現行の日本卓球ルールで行う。(順位決定も含む)

6、 スタッフ選考

- (1)チームリーダー 日学連強化委員会が推薦し、日学連会長が指名する。
- (2)監督・コーチ 日学連強化委員会が推薦し、日学連強化委員長が指名する。
- (3)総務・渉外担当 日学連幹事長(1名)を基本とする。
- (4)必要に応じ「アディショナルオフィシャル」を申請する。

7、 その他

以上